

外国人との交流事業を通じた国際社会に生きる生徒の育成

京山中学校 2 年団 代表者：山本清美

● 研究・実践活動のねらいと期待する効果

1 ねらい

異文化理解、コミュニケーション能力の向上

2 期待した成果

コミュニケーション能力の向上や主体的に外国人と交流できる姿勢の育成。異文化理解や英語学習への意欲の向上

● 研究・実践活動の内容と方法

1 サンノゼ市高校生（12名）との交流会 6月13日(木)

生徒会、部活動を行っている生徒、有志の生徒とアメリカ・サンフランシスコ州・サンノゼ市から来岡した高校生との交流会。学校紹介、校内案内、部活動紹介を小グループに分かれて行う中で、積極的に英語を活用し、交流を深めた。交流会の最後には、校内の中庭で吹奏楽部の演奏やダンス部の「うらじゃ」を披露し、サンノゼ市高校生と一緒にダンスを行うなど、異文化交流を行った。

2 English Day 12月13日(金)

第2学年生徒対象の交流会。アメリカ、イギリス、ベトナム、スリランカ、スペイン、フィリピン、中国、バングラデシュ、マレーシア、インドネシアからの外国の方20名を迎え、前半後半4クラスずつで交流会を行った。各クラス6つのグループに分かれ、1グループ6人の小グループに1人の外国の方が加わり、交流を行った。

①生徒による英語スピーチ

②言語活動（英語・母国語を使った伝言ゲーム）

③自己紹介・名刺交換

④異文化交流会

ア 京山地域の紹介。英語の授業で作成した京山ガイドブックを使って紹介し、贈呈した。

イ ゲストによる自国の紹介。写真、民族衣装、お金、映像等を提示して、自国の生活、文化、歴史、風土について意見交換をした。

⑤日本の伝統玩具贈呈・説明・交流

だるまおとし、けん玉、折り紙、あやとり、紙風船、羽根つき等の使い方を英語で説明し、外国の方と一緒に遊び、異文化交流を深めた。

⑥給食交流会

各クラスに2～3人の外国の方を迎え、一緒に給食を食べた。食文化の違いなどを英語で語り合い、異文化理解を深めた。

交流会を終えての生徒の感想

○相手の話していることが少し分かったし、自分の話している英語も伝わってうれしかった。国は違ってもスポーツや音楽などは共通の話題となったので、学校でいろいろなことを勉強することの大切さを感じた。外国の方と話すのは抵抗があったけれど、その壁が少しゆるくなったと思う。

○遠く離れたスペインの人と話をするのはとても難しかったが、英語を使うと通じ合うことができ、同じ人間として



一緒に遊んで、笑い合えてよい体験になった。

○外から見た日本についてもわかり、そうした目で自分の国や自分自身を振り返ることもできた。

3 English Day in English class I 2月18日(火) 19日(水)

ミャンマー、フィリピン、インドネシア、アメリカからの4人の留学生による第2学年生徒を対象とした授業。2年生は、来年度の修学旅行（水俣市環境学習）に向けて、総合的な学習の時間に環境学習を行っている。また、英語の授業で、地球温暖化などのコスタリカの環境問題やカンボジアの地雷を通した平和・環境問題を学んでいたため、テーマを環境問題として授業を行った。世界には、それぞれの国特有の環境問題があり、それぞれの国が自分たちでできることを考え取り組んでいる様子は、生徒に実感として伝わった。世界の共通のテーマである「環境問題」を英語で語り合うことで、他国や自国をみつめる大きなきっかけになり、自分自身の環境への取り組みにつながった。



4 English Day in English class II 2月24日(月) 27日(木)

イギリス人による授業。パート I に続いて、第2学年生徒を対象に、イギリスの学校生活と環境問題をテーマに授業を行った。環境問題、産業問題、エネルギー問題について学び、多くの知識を得ることができた。

5 English Day in English class III 3月3日(月) 5日(水)

ミャンマー、フィリピン、インドネシア、アメリカからの4人の留学生による第1学年生徒を対象とした授業。1年生は、英語の授業で外国の学校生活について学んでいたため、学校生活をテーマに授業を行った。生徒は、事前に考えていた質問をしたり、日本の学校生活について紹介したりした。交流後には、学んだ内容を英語でレポートにまとめた。

● 得られた成果及び評価

- 第2言語として英語を活用している外国の方の英語や、ネイティブスピーカーの英語など様々な英語に実際に触れる機会は、生徒にとってたいへん貴重な体験となった。
- 教科書では学べない環境に関連した語句や表現、他国の様子など、英語学習においても豊かな知識の習得と言語能力の向上につながっている。
- 小グループでの交流活動は、主体的に外国の方と交流する姿勢が求められ、生徒一人一人が積極的に参加することができ、英語が伝わる体験的な喜びも味わうことができた。さらに諸外国への興味や関心をさらに高める機会にもなった。

● 残された課題とその解決への展望

- 来年度も計画的に外国の方の協力をいただきながら、授業で習得している英語力を実践的に活用できる場を設定していきたいと考えている。
- 課題としては、交流後のあり方、交流で学んだ内容を英語の授業でさらに活用するなど継続させていく工夫、生徒がさらに積極的に交流できるような交流形態の工夫、継続的かつ定期的な交流の場の設定が必要である。
- グローバルな視点で、環境や人権問題について考えることで、コミュニケーション能力や世界の一員としての国際理解を培いたい。

(執筆：山本清美)

<連絡先>

〒700-0087 岡山市北区津島京町1-7-1 TEL : 086-254-2797